

## 取組の目的・背景

たきかわ紙袋ランタンフェスティバルは、日本を代表する彫刻家でありデザイナーである五十嵐威暢氏が提案された「芸術公園都市」を目指して、幼児から高齢者までひとりひとりのデザイン感覚を活かし、雪国のライフスタイルを楽しむことや夜の景観づくりに貢献することを目的に2003年から始まった滝川発信の市民参加型イベントです。

## 取組の内容

本イベントは、雪景色の夜、ロウソクが灯るわずか3時間の間に開催されるものです。飾るための紙袋ランタンは、表側に絵を描いたり切り込みを入れたりして紙袋を二重に重ねて作ります。市民による制作は、市内の保育所や幼稚園、各学校、高齢者施設、福祉団体や文科系の市民団体及び各企業など多方面に広がっており、それぞれの施設の希望に応じて市民ボランティアが制作指導に赴くなど、市民同士の交流の場にもなっています。フェス当日の朝から行う設置作業には、市内を始め市外からも多くのボランティアが参加し、毎回集まる約1万5千個の紙袋ランタンは、駅前駐車場と駅前通りを中心に飾られます。

## 取組の成果

《地域社会》 本事業は、地域の方々が紙袋ランタンの制作に関わることで、イベントへの参加意欲や期待感とともに楽しさが広がり、世代間交流や地域文化の振興、市民交流の場としての効果が期待されます。

《地域経済》 フェスティバルを観光の目的として当市を訪れる観光客の方々によるSNS等での情報発信などが期待され、当日は地域の特産品販売、地元飲食店や学生による模擬店などの飲食ブース開催などもありイベント会場から街なか歓楽街への人の流れができるなど、様々な観光誘致やまちの魅力づくりに貢献することができます。

## 取組の課題と期待

本フェスティバルは、雪景色の中にロウソクが灯る紙袋ランタンを飾り楽しむことを目的としているため、開催が毎年2月となり、現在のところ第19回の開催は新型コロナウイルス感染拡大の収束が見通せないため見送りとしています。18回で制作されたおよそ1万2千個のランタンはなんらかの形で公開できるよう検討したいと考えています。さらに、来るべき第20回目（2022年2月予定）は是が非でも開催したいという準備会の思いもあり、今から開催方法について協議しているところです。

## 建築士としての関わり

このイベントは地域の様々な個人・団体が参集して実行委員会を構成しています。建築士会空知支部滝川分会は事前に開催される会議（4回）に参加し担当エリアの配置デザインを決めたり、協賛金の回収、告知ポスターの配布を他の団体と同様に行っています。開催当日は担当エリアの紙袋ランタンの設置、管理警備、片付けを行います。



QRコード



URL

<http://www.lantern-takikawa.jp/>